

# 北海道の元気! NPO訪問

33 NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ

文・加藤知美

## 障がいを持つ人たちに多様な仕事を提供 誰もが働ける共生社会の実現をめざす

### ◇ 印刷業の小規模作業所から出発し事業 拡大

地下鉄琴似駅近く、にぎやかな通りにほど近いマンションの一階フロアを訪ねると、さまざまな障がいを持つ若者が、和やかな雰囲気の中作業をしている。厚真町で低農薬栽培された「ゆめぴりか」をその場で精米・袋詰めする作業が行われる一方、隣のスペースでは、印刷物の山を囲んで封筒詰め作業があわただしく進められている。

今回訪問したのは、「NPO法人札幌・障害者活動支援センターライフ」の本部事務局とその事業所の一部だ。このほかに、西区二十四軒、西区発寒、中央区中島公園、札幌駅北口エルプラザなどに活動が広がっており、札幌市内七カ所の拠点に一一の仕事場がある。印刷、飲食、介護事業、環境事業と様々な仕事が行われている。

ライフの活動は、だれもが地域であたりまえに暮らし、働くことができる社会を創ることを目指している。ワーカーズコレクティブとして運営されていた印刷会社にひとりの脳性マヒの障がい者が参加したことをきっかけに、一九九〇年、障がいを持つ五名の働く場として「ワープロフロアー」が小規模作業所として活動を開始した。その約一〇年後に、小規模作業所「おおぞら」、「自然食品の店ひだまり」を開設して働く場を広げ、現在の名称でNPO法人格を取得した。

障がい者が働くための状況は、二〇〇六年の障害者自立支援法の施行により大きく変わった。その頃、滋賀県が独自で「社会的事業所制度」を創設して障害者が雇用契約により最低賃金を保障される就労の場づくりを進めていたのに並んで、札幌市も先進的な取り組みを始めた。障がいがある人もない人も同じ立場で、共に助け合いながら生

き生きと働ける、そんな職場が広がることを目指した「札幌市障がい者協働事業所制度」だ。

この制度を利用して、印刷業務を行う「共働事業所もじゃ」、軽作業を中心に行う「共働事業所たねや」、製本業務や配達・配達

ポストイン、物品販売などの仕事をする「共働サービスきばりや」をスタートさせた。障害を持つ人々の就労の場である就労支援A型と札幌市障がい者協働事業所制度によって当初一六名の障がい者と雇用契約を結ぶに至った。

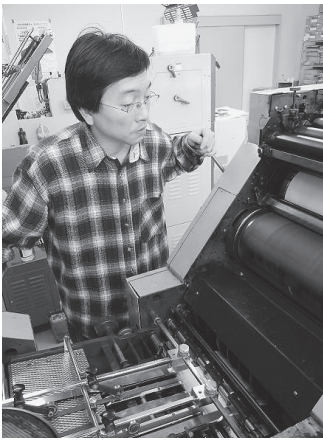
### ◇ 飲食やリサイクルの分野へ、複数事業所の共同受注も

印刷事業から出発したが、近年はITの普及などにより受注は減少気味であり、働く障がい者のスキルや個性も多様なため、飲食やリサイクル事業など仕事の領域を広げている。

「自然食品の店ひだまり」をリニューアルした「コン・ブリオひだまり」は、琴似の住宅街に店を構え、手作りにこだわったお弁当や惣菜、定食



法人本部と事業所がある琴似の拠点



共働事業所「もじや」は、その名の通り「文字」に関する印刷事業を行う

を販売している。配達もするが、近所の人々に気軽に利用してもらい、地域食堂のような交流の場になることを願っている。また、札幌市の公共四施設が入居する札幌エルプラザの三階にある「Cafe de キバリヤ」は、オーガニックのメニューなどを提供する、こだわりのカフェである。リサイクル事業では、札幌市リサイクルプラザ発寒工房と札幌市リユースプラザの事業委託を受け、障がい者と高齢者の仕事の場としている。札幌市が大型ごみとして回収した家具や自転車を修理して再生し、リサイクルやリユースの啓発を行う仕事だ。環境事業が障がい者や高齢者の雇用を生む意義深い取り組みでありながら、一般競争入札による価格競争で落札されることに違和感を感じたということだが、三年間の委託期間で人材育成も順調だ。

ライフの事業所は、障がいを持つ人と雇用契約を結び最低賃金を保障する就労継続支援A型、いわゆる福祉就労の場である就労継続支援B型、札幌市からの委託事業、札幌市障がい者協働事業所制度など様々な形態をとっている。B型の「共働

サービスたねや」は、A型の「共働サービスきばりや」の仕事の下請けや「コン・プリオひだまり」の弁当の配送などを受け持つといった仕事の流れがあるが、次々と増える働き手に合わせて仕事を確保する作業は簡単ではない。

そうしたなか、二年前から札幌市のふるさと雇用再生特別対策推進事業として始まった「アウトソーシングセンター元気ジョブ」の委託をうけて、札幌市内に約二〇カ所ある障がい者の事業所の仕事の営業を行っている。官公庁や民間企業に営業し、発注してもらった業務を振り分けたり、授産品の販路拡大などの事業を展開している。単独の事業所では規模が小さいために受注できないような大きい仕事も、複数の事業所で共同受注するなどのメリットがある。障がい者の工賃アップにつなげ、働き甲斐をつくるためのマッチングだ。

#### ◇ 共生の場「社会的事業所」に注目

ライフは今や二〇人の大所帯となっている。障がいの種別にかかわらず「働きたい」という気持ちを受け入れ大事にしてきた結果だ。近年はホームレス等の就労の場づくりにも力をいれている。

活動内容は、札幌市内に点在する事業所の所長が月二回集まって決めていくが、現場で解決できない問題は理事会がバックアップする。事業規模は二億円を超えている。いずれは活動をのれん分けするように独立させていければ、との思いもある。



清潔な身なりを心がけ、安心の食材で手作りのこだわり食を提供

専務理事の石澤利巳さんが注目しているのは、「社会的事業所」というあり方。障がいのある人をはじめ、社会的に不利な状況にある人たちも含めて、共に働き共に生きていくための働く場だ。ホームレス、ボーダーと呼ばれる知的障害に認定されない境界域の人、働きづらさを抱えて一般企業からドロップアウトした人やニート、ひきこもり、スキルはありながら働き場のないシングルマザー、マイノリティであるアイヌなどが、働く中で支え合う。イタリアでは社会的協同組合と呼ばれるほか、ソーシャル・ファームとしてヨーロッパ各地で広がっている。それらはどれも「誰もが働ける社会をめざす取り組み」であり、制度化が期待されている。

#### ◆ NPO法人札幌障がい者活動支援センターライフ

所在地 札幌市西区琴似2条5丁目3-15

マンションMOMO1階

TEL 011-633-1666

WEB <http://npolife.net/>